

イエス：造り主であり、すべてを治める方

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です 1:16
なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、
また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、
御子によって造られ、御子のために造られたのです。1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万
物は御子にあって成り立っています。

はじめに

なぜ私たちにとってイエスがそんなに重要なのでしょうか？答えが頭の中に色々と浮かぶこと
でしょう。まず皆さんの頭に浮かぶのは、イエスが救い主であるということでしょうか。待降節
の時期に入ってイエスの誕生をお祝いするにあたり、イエスが世にもたらされる希望を思い浮
かべる方もいるかもしれません。答えとして何が思い浮かんでいたとしても、私たちが 100%
同意できるのは、イエスは信仰と教理において欠くことができない存在であるということです。
イエスなくして、私たちに救いはなく、神の御前に立つすべはありません。

コロサイの一章を引き続き学ぶにあたって、イエスが誰なのかについてのパウロの説明を見て
いきます。この前の部分では、パウロは教会のために祈っていました。教会のために祈りをつ
づけていたので、パウロは祈りを「アーメン」と締めくくっていません。パウロの祈りは、私
たちが移されたその御国を持っておられる「愛する御子」への賛美の歌へと移り変わります。
パウロは、「イエスとは誰で、なぜイエスがそんなに重要なのか」という疑問に答えようとし
ています。そして今朝見ていく箇所では、イエスが造り主であり世を治める方であると説明し
ています。この箇所の全体にたくさんのインクがこぼれているようなもので、三位一体と御子
のご性質の重要な側面についてすべてを一回の説教でやることは到底できません。

もっと言えば、私の目標は皆さんに組織神学のレッスンをすることではありません。その代わ
りに、クリスチャンにとっての三位一体の重要性に注目してもらい、主にお仕えすることにお
いて皆さんを激励したいと思っています。

イエスが造り主であり、世を治める方であると示すことで、使徒パウロはコロサイ教会の福音
における希望が、最大限に強固な基盤、つまり神のご性質そのものに基づくようにしました。
私たちの救い主として、私たちの愛と献身をそそぐべきお方としてイエスを見るのです。今日
の聖句を見る前にもう一つ覚えておくことは、この箇所が初期のクリスチャンにとって、ある
種の讚美歌、もしくはイエスのご性質を告白するものとしての役目を持っていただろうという
ことです。この箇所は詩のようになっているので、使われている言葉のために混乱する人もい
るのはそのためです。特に 15 節はそうです。今朝は、私たちがパウロの意図に注目できるよう祈
ります。つまり、イエスの栄光において私たちの目をイエスに向け続けることです。

今日の聖句に注目するにあたって、パウロのコロサイ人たちのための祈りの最後の部分を思い

出さなければいけません。光の中にある聖徒の相続分にあずかる資格を与えてくださった神に感謝をお捧げすることができるように、とパウロは祈りました。そして御父が私たちを暗やみの圧制から救い出し、愛する御子のご支配の中に移してくださった、と続けています。

1. 先に生まれた方 (15 節) - 「御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。」

15 節は、前の節と同じテーマを引き継いでいます。愛する御子、イエスを通して、私たちに贖いがあるということです。15 節でパウロは続けて、祈りから説明へと重点を移していきます。パウロは、私たちが御子から受ける贖いは保証されていると教えています。御子がどのようなお方であるかゆえに、それは絶えることがないと信頼できるのです。御子は神のかたちであり、私たちに神を示す方です。この御子が見えない神を私たちが見えるようにされるのです。御子が「見えない神のかたち」であることに並行して、御子は「造られたすべてのものより先に生まれた方」、とあります。この文言は、教会の歴史の中で多くの混乱を引き起こしてきました。それは、イエスが創造されたものであるかのように見えるからです。この節の意味を引き出す前に、まずこの節はイエスが創造されたと言っているのではないと言っておかなければなりません。「先に生まれたもの」と言っているのです。この告白は、イエスが全てにおいて秀でておられるということを示します。イエスは創造物の上にある方で、新しい御国の主であられるのです。イエスが私たちと同様に造られたものであると教えているのではありません。イエスが神の創造の他の何よりも圧倒的に秀でていて言っているのです。この難しい節の解釈をできるだけ簡単にしてみましょう。16 節を見てください。イエスが先に生まれたものであると言われた後のその流れですぐに「なぜなら」と書いてあります。この繋がりは明確です。私たちの主イエスが「造られたすべてのものより先に生まれた方」と言われるのは、イエスを通してすべてが造られたからです。すべてのものはイエスによって、イエスのために造られました。周囲の箇所ではパウロは、御父が御子を通してすべてをお造りになったからこそ、御子は造られたすべてのものより先に生まれた方と言えるのだと教えています。もっと言えば、イエスはすべてを受ける方です。すべてはイエスのためなのです。「先に生まれた方」「かたち」と呼ばれることで、御子のご性質が力強く宣言されています。私たちの主イエスは見えないものを見るようにされた方ですが、すべてのものを造られた方でもあります。

ですから 15 節は、神より低い位置にある、一つの創造物としてイエスを見ているのではなく、私たちの注目が三位一体の神の知恵に向くようにしているのです。神の知恵にあって、三位一体の第二位格は御父から生まれたと示されています。「先に生まれた方」のご性質として、イエスは地位と権威において第一の場所に就いておられます。

イエスは御父に属するすべてのものの相続者です。はじめに、すべてのものが現れるずっと前から、イエスは御父とそこにおられたのです。御父と御子はすべてのものにおいて完全に一致しておられました。本質的に、そして御心においても一致していたのです。それが創造において顕著にみられます。創造物はとても良いと言われました。神が世を造られたということは、御子がすべてをお造りになったということです。すべてにおいてイエスは最高の位置を占めます。

2. 造り主 (16 節) - 「1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」主イエスはすべてのものの造り主です。創世記 1 章とヨハネの福音書 1 章からもそれが明確です。コロサイ 1 章の中でも最もユニークなのは、御子がすべての造り主であるということを明確にしている点です。イエスは、見えるか見えないかに関わらずすべてを造られた方であるということです。イエスによってすべてが造られたということは、御子が世をお造りになるために他の力を必要としなかったということです。人間はこの力に類似するものは持っていません。芸術家が仕事に取り掛かる時には、素材を必要とします。建物を建てる時には材料を必要とします。絵画は芸術家によって作られたものと言われるかもしれませんが、それも実際は自分が再現したいものを表現するために、元の素材をアレンジしているだけです。神はそうではありません。御子は生の素材から造りたいものを表現したのではなく、御子ご自身が世とその中のすべてを造られたのです。

私たちはもっぱら目に見えるものに注目していますが、自然や物理的観点でこの世を考えるように教えられているのでそれは自然なことです。ひと昔前の世界では、人々は霊的な世界が自分たちに近いように考え、行動していました。現代的な薬や現代的テクノロジーに親しむ今の人は、自分たちが目にするのでできない力や支配者がいると考えるのを嫌がります。クリスチャンでさえも霊的な力を忘れてしまうことがあります。この箇所パウロが「見えない力」について含めたことは、イエスがなにも同等ではありえないと言うためでしょう。創造物が創造された方と同等になることなどありえるのでしょうか。創造物のすべての次元における見えない力は御子の力と権威によって保持されています。創造された世界は、御子によって、御子を通して、御子のために存在するのです。

3. 治める方 (17 節) - 「1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。」

創造されたすべてのものは神の偉大な力と栄光の足元に据えられるものです。罪による人間の背きがこの世を台無しにして、悲しみと混乱に満ちたものになってしまっても、それでもすべては神のみもとにあります。この世の状況を嘆く人が大勢います。この世に非常に多くの問題があることから神の存在を疑う者もいます。17 節を読むと、そういった人々がどうしてそのように結論付けてしまうのかのヒントが見えます。もしも神がとても良い方で、力強い方なのであれば、なぜ壊れきったこの世を神は黙認されているのでしょうか？

答えは 17 節にあります。「御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。」言い換えるなら、世の終わりはそこにもう見えていて（少なくとも神の目には）、それでいて今安定を保っているのは神の支配によるものであり、世の状況によるのではないのです。神はすべてを良いものに造られました。御使いと人間の背き、そして罪への墮落は、苦しみと悲しみがこの世に放たれたことを意味しました。世の平静が破壊され、この世のすべての悪が育ち始めたのです。墮落直後に嫉妬と殺人が起こりました。神はアダムとエバに、善悪の知識の実を食べれば必ず死ぬと言われました。死がこの世に入ったのは、罪の裁きの一部だったのです。ここまでこのように言ってきたのは...「この世で起こっていることのなかで神の力

の範疇にないものはない」と言うためです。またこの世に良いものが何もないと言い切れるでしょうか。この世には多くの美しさや良いものがあります。罪によって台無しにされたと言え、自然界には調和も見られます。罪に陥ったとは言え、世界中の様々な文化の人々がいまでも真実やすばらしさ、美しさに価値を見出しています。これらはすべて、神の御手の証拠です。御子が支えておられるからこそ、この世が保たれているのです。

結論

皆さんに質問です。御子に力と権威があると言いきになることがあるでしょうか？一般的に言って、イエスに功績を与えず、栄光をささげすぎということはありません。御子は御父ではありませんが、この二つは本質的に同じです。一つがもう一つより優れているわけではありません。それは、この二つが永遠に共存し、等しいからです。御子が神から永遠にお生まれになったということをのぞけば、神について何を述べても、御子にも同じことが言えますイエスを過剰評価しすぎることはありません。なぜなら、神は喜んで満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせておられるからです（コロサイ 1:19）。もう一つ言わせてください。三位一体の教理をしっかりと掴むことは皆さんにとって本当に重要です。この点について理解が漠然としていたら、何かを欠いていることに気づかないかもしれません。この三位一体の教理は複雑で、感覚的な用語にあふれています。聖書の教えを否定したり、古代の異端的考えに陥るのは容易ですが、三位一体の教理はクリスチャン信仰の最も基本的な部分です。神の関心事の一つは、私たちの礼拝です。神ご自身の本質について否定するなら、どうやって自分が神を賛美していると確信できるでしょうか？皆さんが自分の信仰に思いを向けるにあたり、注意を促したいと思えます。現代は、教会でも神学はあまり重要ではないという人が多くいる時代です。神学は複雑すぎて、学問のようなものだから詳細にはとらわれたくないと言うのです。神学を学ぶことは難しく、何を勉強するかによっては退屈かもしれません。けれども、神は退屈なお方でないことは確かです。神の御力、主権、素晴らしさに匹敵するものはありません。この世のものがすべてだと言う人が居る一方で、私たちはもっと良いものを知っています。神がご自身を表されたからです。神は創造物の王であり、万物を治める方です。終わりの時が来る時、この世がすべてというような生き方をしていることがないように。三位一体の神に完全なる信頼を置きましょう。

最後に、礼拝と敬意はイエスの御名のゆえのものです。受肉された神の子として、私たちの主イエスはまことの神なのです。イエスをそのように賛美できます。イエスに、そして嘘偽りのない神のゆえにイエスの約束に信頼するのです。三位一体の神にあって私たちは必要なものをすべて持っています。恐れる時、人生に打ちのめされているとき、将来が不安な時、イエスを見つめることができます。イエスこそが世をお造りになり、治め、保っておられるのです。イエスは御国をもたらすために戻ってこられ、私たちはそれを待ちます。天にあるようにこの地にも御国が来るのを待つに当たって、イエスの御名を賛美するのです。